

出資法人等経営状況報告書

1 作成年月日及び担当部署

作成年月日	令和3年8月24日	担当部署	産業観光交流部 施設経営管理室
-------	-----------	------	-----------------

※以下は令和3年3月31現在の内容です。

2 法人等の概要

法人名	株式会社 みなもとの郷		
代表者	代表取締役 内藤 潔		
	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤	<input type="checkbox"/> 非常勤	<input checked="" type="checkbox"/> プロパー <input type="checkbox"/> 市兼務 <input type="checkbox"/> その他
所在地	新潟県上越市吉川区坪野 1458 番地 2		
設立年月日	平成 12 年 2 月 9 日		
資本金	10,000 千円	市出資割合	51.0%
設立目的	吉川区源地域を中心とした中山間地の地域振興を目的に市の所有若しくは管理する不動産及び入浴施設その他の施設の管理運営を行うため。		
主な事業	(1) 吉川スカイトピア遊ランドの管理運営 (2) 吉川緑地等利用施設の管理運営 (3) 吉川地域バス運行事業の運行業務委託 (4) 吉川観光協会の事務受託 (5) 尾神岳スカイスポーツエリア運営委員会の事務受託		

3 役員数

(単位：人)

	常勤	非常勤	計	内訳		
				プロパー	市兼務	その他
取締役	1	5	6	6	0	0
監査役	0	1	1	1	0	0
計	1	6	7	7	0	0

4 職員数

(単位：人)

	計	内訳	
		プロパー	市兼務
正社員	3	3	0
その他	26	26	0
計	29	29	0

5 事業実績（概要）

【第22期（令和2年度）の事業報告】

- ・ 第22期の売上高は、前期と比較して17,000千円減（37.8%の減）の27,998千円となりました。国のGoToトラベル事業をはじめ、新潟県や上越市の宿泊キャンペーン等を積極的に活用し誘客に努めたものの、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、売上高が減少しました。
- ・ これに伴い、売上原価は前期と比較して3,501千円減（31.1%の減）の7,750千円となり、販売費及び一般管理費では経費削減に努め、前期と比較して4,359千円減（12.1%の減）の31,736千円となりました。
- ・ この結果、最終的な当期純利益は△61千円となり、第22期末の累積欠損金は564千円となりました。

【主な取組内容】

- ・ 尾神地区の自然や歴史、文化を活かした誘客活動と都市交流事業の推進
- ・ 上越市域、柏崎市域を視野に入れた体験事業の拡充
- ・ 地産地消を心掛けた料理の提供等によるサービスの向上

【施設の利用実績】

○ 吉川スカイトピア遊ランド

（単位：人）

	第20期		第21期		第22期		
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	
宿泊	1,560	1,687	1,650	1,530	1,650	652	
休憩（食堂）	4,500	5,103	4,300	4,461	4,300	2,314	
体験交流センター	入館者（入浴）	2,400	2,734	2,600	2,734	2,600	1,585
	体験者	740	421	750	489	750	27
小計	9,200	9,945	9,300	9,214	9,300	4,578	

- ・ 第22期の利用者数は4,578人となり、前期と比較して4,636人の減（50.3%の減）となりました。このうち、宿泊の利用者は652人となり、前期と比較して878人の減（57.4%の減）となりました。

○ 吉川緑地等利用施設

（単位：人）

	第20期		第21期		第22期	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績
見はらし荘	1,140	697	900	454	900	556
スポーツスライド	840	495	1,000	580	1,000	665
キャンプ場	20	55	（休止）		（休止）	
小計	2,000	1,247	1,900	1,034	1,900	1,221

- ・ 第22期の利用者数は1,221人となり、前期と比較して187人の増（18.1%の増）となりました。このうちスポーツスライドの利用者数は665人となり、前期と比較して85人の増（14.7%の増）となりました。

6 財務状況（税込）

（単位：千円）

項 目		第 20 期	第 21 期	第 22 期
		自 平成 30 年 4 月 1 日 至 平成 31 年 3 月 31 日	自 平成 31 年 4 月 1 日 至 令和 2 年 3 月 31 日	自 令和 2 年 4 月 1 日 至 令和 3 年 3 月 31 日
損益計算書	売上高	46,836	44,998	27,998
	売上原価	10,993	11,251	7,750
	売上総利益	35,843	33,747	20,248
	販売費及び 一般管理費	35,773	36,095	31,736
	営業利益	70	△2,347	△11,488
	営業外収益	73	1,859	11,498
	営業外費用	0	0	0
	経常利益	143	△488	9
	特別利益	0	0	0
	特別損失	0	0	0
	税引前当期純利益	143	△488	9
	法人税等	70	70	70
	当期純利益	73	△558	△61
項 目		平成 31 年 3 月 31 日現在	令和 2 年 3 月 31 日現在	令和 3 年 3 月 31 日現在
貸借対照表	資 産	13,089	13,301	11,950
	負 債	3,034	3,804	2,514
	純資産	10,055	9,497	9,436
	資本金	10,000	10,000	10,000
	利益剰余金	55	△503	△564
その他	0	0	0	

※ 金額については、千円未満を四捨五入して表示しており、端数処理の関係上、決算書及び計算結果と一致しない場合があります。

7 市からの財政支出等

(1) 委託額 (税込)

(単位：千円)

内訳		平成30年度	令和元年度	令和2年度	備考
①	吉川スカイトピア遊ランド指定管理委託料	2,666	2,367	2,517	
②	吉川緑地等利用施設指定管理委託料	1,960	1,467	1,467	
③	吉川地域バス運行業務委託料	4,577	4,212	3,479	
計		9,203	8,046	7,463	

(2) 財政援助額 (税込)

(単位：千円)

内訳		平成30年度	令和元年度	令和2年度	備考
①	補助金 (助成金)	0	0	0	
②	貸付金	0	0	0	
③	損失補償	0	0	0	
④	債務保証	0	0	0	
⑤	その他 (補填金)	0	1,793	5,859	指定管理減収補填金
		240	257	178	シニアバスポート減免補填金
計		240	2,050	6,037	

8 今後の経営計画等

(1) 次期事業計画

【事業計画】

第23期(令和3年度)は、新型コロナウイルス感染症の動向を見極め、次の取組を進めるとともに、国県等の支援策を積極的に活用し、市との協議・連携を深め事業の持続化に努める。

- ① 営業活動と経費削減に努めるとともに、地域活性化に資する諸事業を持続する。
- ② 既存事業を継続しながら、施設利用者の安全・安心に配慮する。
- ③ 地域活性化の中心施設であるスカイトピア遊ランドの継続が図られるよう運営する。

【集客目標】

(単位：人)

吉川スカイトピア遊ランド		吉川緑地等利用施設	
宿泊	1,100	見はらし荘	900
休憩(食堂)	4,300		
体験交流センター	入館者(入浴)	スポーツスライド	1,000
	体験者		
合計		合計	1,900

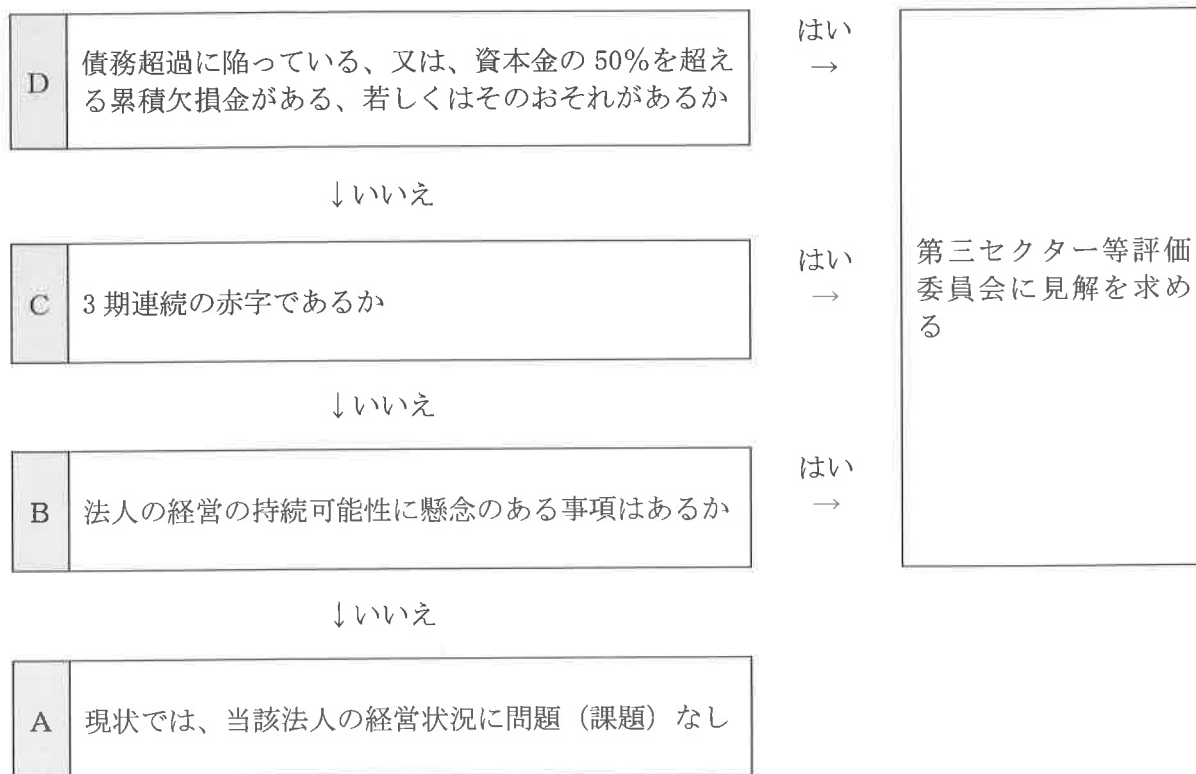
(2) 中長期経営計画

なし

9 令和3年度 経営状況の分析・評価

(1) 第三セクター等の経営状況の分析・評価のフローチャート

※「第三セクター等に対する関与方針」から抜粋



フローチャートによる評価基準		備考
A	経営状況に問題（課題）なし	引き続き経営努力を行う
B	法人の経営の持続可能性に懸念がある	経営健全化の可能性について、第三セクター等評価委員会に見解を求める
C	当期純利益が3期連続の単年度赤字である	
D	債務超過に陥っている、又は、資本金の50%を超える累積欠損金がある	

フローチャートによる評価	A	→ BからD評価の法人は(2)へ
【特記事項】		

(2) 令和3年度 第三セクター等評価委員会の分析・評価

第三セクター等評価委員会の評価
<input type="checkbox"/> 課題あり <input type="checkbox"/> 課題なし
第三セクター等評価委員会の分析
【上記評価の理由】
【その他指摘事項等】

(3) 分析・評価結果を受けての対応方針

第三セクターによる対応方針
市担当部署による対応方針

10 令和2年度 第三セクター等評価委員会の分析・評価に対する対応状況

令和2年度 第三セクター等評価委員会の分析・評価【概要】
第三セクターによる対応状況
市担当部署による対応状況

第22期 営業報告書

株式会社 みなもとの郷

概況等

- (1) 当社は、上越市吉川区尾神岳観光エリアに位置する地域活性化拠点施設である中核的な吉川スカイトピア遊ランドの経営並びに吉川緑地等利用施設の管理運営を主体として、吉川地域バスの運行業務や尾神岳スカイスポーツエリアの管理運営、加えて吉川観光協会や顕法寺城址で狼煙を上げる会、水源地域振興対策協議会、尾神岳ファンクラブ、吉川おどり隊の事務局を担い、地域の諸課題に向き合い積極的に各種事業等を展開しながら、雇用の場の創出と地域の活性化に寄与することを重点目標とした経営に努めています。

山間地で積雪が多いという厳しい立地条件や交通アクセスにも恵まれず地域の過疎化・人口の高齢化が急速に進む中、役職員一丸となった営業努力と経費削減に取り組みながら安定経営を目指して頑張ってきています。

しかしながら、今冬は35年振りの豪雪に見舞われ冬期間のお客様の減少に拍車をかけ、施設の維持管理（除雪等）にも苦慮いたしました。

- (2) 新型コロナウイルス感染症問題は、未だに収束の兆しが見えない状況が続いています。

特にこの問題は、全国的に宿泊、飲食サービス業等を直撃し、関連業界も含めて苦境に立たされていることはご案内のとおりであります。

当社にとっても、昨年4月14日から5月31日までの休業に加え、その後も都会方面からの宿泊客の激減、田舎体験事業の中止キャンセル、食事・宴会客の減少等々により経営が難しさを増しました。

こうした中、国や県、市の直接的な支援策等を積極的に活用したり、国のGoTo トラベル事業や県、市の宿泊キャンペーン事業等にも前向きに取り組んで誘客に努めて参りました。

また、最終的には市から協定による災害補填金を受けるなどして経営の存続を第一義として当期の決算を見たところであります。

- (3) 取締役会の開催につきましては、課題等が生じた場合にのみ必要に応じて開催することとし、定期的開催は行わないこととしています。

当期は、株主総会以降昨年12月17日と本年6月14日の2回の開催にとどまりました。

これは、コロナ禍の現下にあつて協議事項が限定されてしまうことと、各取締役の皆さんとは日常の情報交換が行われているため、会議開催の必要性にせまられなかったためであります。

- (4) ① 今期（令和2年度）の営業収益（売上高）は、27,997千円であり、前期営業収益（売上高）との比較では17,001千円の減（約62.2%の減）と激減してしまいました。これは、まぎれもなくコロナ禍により売上高を大きく引き下げたのが原因となっています。
- ② 営業費用は、こうした中にあつてもサービスの低下とならない範囲で人件費や水道光熱費等の大幅な抑制に努めたものの39,486千円となり、営業収益（売上高）を大きく上回る数値となってしまいました。
- ③ 当期は、(2)でも記述しましたがコロナ感染防止対策とされる国、県、市の給付金や補助金等に積極的に取り組み、収入の確保（11,497千円〈内、上越市の損害補填金5,859千円〉）に努め雑収入で受けた結果、経常利益が9千円となり、税引後の当期純損失が61千円となったところであります。

決算報告書

(第 22 期)

自 令和 2 年 4 月 1 日

至 令和 3 年 3 月 31 日

㈱みなもとの郷

新潟県上越市吉川区坪野1458番地2

貸借対照表

令和 3 年 3 月 31 日現在

単位 円

	資 産 の 部	
【流動資産】		
現金及び預金	4,440,285	
売掛金	104,050	
商品	933,138	
未収金	2,618,226	
仮払金	35,500	
	流動資産合計	8,131,199
【固定資産】		
(有形固定資産)		
建物	2,476,750	
建物附属設備	812,312	
機械装置	126,412	
車両運搬具	1	
工具・器具・備品	62,679	
構築物	117,342	
	有形固定資産合計	3,595,496
(投資その他の資産)		
出資金	1,000	
	投資その他の資産合計	1,000
	固定資産合計	3,596,496
【繰延資産】		
開業費	222,541	
	繰延資産合計	222,541
	資産の部合計	11,950,236
	負 債 の 部	
【流動負債】		
買掛金	126,946	
未払金	146,930	
未払費用	2,068,100	
未払法人税等	70,000	
預り金	102,180	
	流動負債合計	2,514,156
	負債の部合計	2,514,156
	純 資 産 の 部	
【株主資本】		
(資本金)		
資本金	10,000,000	
	資本金合計	10,000,000

(利益剰余金)
繰越利益剰余金

	Δ563,920	
利益剰余金合計	Δ563,920	
株主資本合計		9,436,080
純資産の部合計		9,436,080
負債及び純資産の部合計		11,950,236

損 益 計 算 書

自 令和 2 年 4 月 1 日
至 令和 3 年 3 月 31 日

単位 円

【 純 売 上 高 】		
売上1 (遊ランド)	20,800,835	
売上2 (見晴し・ポプラー)	2,244,790	
売上3 (地域バス)	3,479,171	
売上4 (道の駅店)	1,473,005	27,997,801
【 売 上 原 価 】		
期首商品棚卸高	1,741,448	
仕入1 (一般)	6,621,828	
仕入4 (道の駅店)	319,937	
合 計	8,683,213	
期末商品棚卸高	933,138	7,750,075
売 上 総 利 益		20,247,726
【販売費及び一般管理費】		31,735,986
営 業 損 失		11,488,260
【 営 業 外 収 益 】		
受 取 利 息	27	
雑 収 入	11,497,636	11,497,663
経 常 利 益		9,403
税引前当期純利益		9,403
法人税、住民税及び事業税		70,000
当 期 純 損 失		60,597

販売費及び一般管理費

自 令和 2 年 4 月 1 日
至 令和 3 年 3 月 31 日

単位 円

賃金	15,250
荷造運賃	21,496,743
給与	1,097,354
法定福利費	157,913
福利厚生費	595,881
租税公課	3,319,343
水道光熱費	477,583
通信費	25,851
広告宣伝費	40,750
接待交際費	193,640
損害保険料	453,513
修繕費	950,612
消耗品費	451,666
減価償却費	459,460
支払手数料	964,092
車両費	74,800
リース料	77,100
諸会費	296,310
設備保守費	499,453
環境衛生費	88,672
雑費	88,672

販売費及び一般管理費

31,735,986

株主資本等変動計算書

自 令和 2 年 4 月 1 日
至 令和 3 年 3 月 31 日

単位 円

	株主資本				純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本合計	
		その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	10,000,000	△503,323	△503,323	9,496,677	9,496,677
当期変動額					
当期純損益金		△60,597	△60,597	△60,597	△60,597
当期変動額合計		△60,597	△60,597	△60,597	△60,597
当期末残高	10,000,000	△563,920	△563,920	9,436,080	9,436,080

個 別 注 記 表

自 令和 2 年 4 月 1 日
至 令和 3 年 3 月 31 日

I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

 たな卸資産の評価基準及び評価方法

 最終仕入原価法を採用しております。

固定資産の減価償却の方法

 定額法又は旧定額法及び定率法又は旧定率法を採用しております。

会計処理の原則又は手続の変更

 消費税の会計処理は税込方式を採用しております。

II. 貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額

9,196,738円

監査報告書

第22期決算監査の結果、貸借対照表、損益計算書および利益処分について、いずれも適法かつ正確であることを認めます。

令和3年6月8日

株式会社みなもとの郷

監査役 中 村 久 人



第23期 事業計画並びに収支計画について

株式会社 みなもとの郷

1. 当社の経営は、施設が山間地に存するという立地条件や行き止まりという道路条件の不便さ、加えて積雪が多く、過疎化・人口の高齢化が急速に進む地域の中で、役職員の協力のもと営業努力と経費削減に努め地域活性化の中核会社と位置付け、吉川スカイトピア遊ランドの管理運営業務を主体として諸事業等の持続性を第一義に考えて進めて参ります。
2. 地域バスの運行業務、道の駅直売店の運営、吉川観光協会の事務、尾神岳スカイスポーツエリアの運営等々に加え、中でもスカイトピア遊ランドが市の指定緊急避難場所とされていること等を鑑み、地域住民の安全・安心にも配慮するなど、引き続き地域の諸課題にも対応しつつこれまでの事業を参考に各種事業等を積極的に展開し、雇用の場の創出と地域の活性化を図りながら地域福祉の向上に貢献して参ります。
また、吉川緑地等利用施設の管理運営については、令和1年度からキャンプ場（ロッジ棟を含む）や坪野親水公園が休止されたこと等を鑑み必要に応じて市と協議しながら進めて行きます。
3. 世はまさにコロナ禍が蔓延し未だ収束が見えない中「新しい生活様式」がどう求められどう変わっていくかなどはまったく予想がつかない現状にあります。
こうした中ではありますが、中心施設のスカイトピア遊ランドは地域活性化の拠点施設としての位置付けにあることを確信し、今期は次の第24期につなぐ年として、当社の経営についても真剣に検討を重ねながら事業の継続化が図られるように取り組んで参ります。
個別の事業等については、未だコロナ禍にあり計画を立てるのが難しいため、前期同様今期も記載を割愛いたします。
4. 収支計画については、コロナ禍がどこまで影響するか見通しが立たない前期は計画を立てませんでした。今期は前期の実績等をベースとして希望的な数値で計画いたしました。
いづれにしても、コロナ禍に係る国・県・市の支援策等を積極的に活用するとともに、地道にリピーターが戻ってくれることを願いながら、日常的に市との協議・連携を深め事業の持続化に努めて参ります。

第23期 収支計画

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(収入の部)

単位:千円

科目	本年度計画額	前年度計画額	前々年度計画額	増 減	備 考
利用料金	25,000	—	31,000	-6,000	入浴(日帰り)、宿泊、体験交流、食堂、スライダー等の利用料金
受託料	7,463	—	8,224	-761	指定管理者受託料
雑収入	4,537	—	5,376	-839	利子、自主事業収入、補助・交付金等
合計	37,000	—	44,600	-7,600	

(支出の部)

科目	本年度計画額	前年度計画額	前々年度計画額	増 減	備 考
給料賃金	21,000	—	21,190	-190	
法定福利費	1,000	—	1,060	-60	社会保険料、労働保険料
福利厚生費	150	—	300	-150	通勤手当、職員研修費
租税公課	600	—	1,270	-670	法人税・住民税・消費税
諸会費	70	—	100	-30	商工会費、食品衛生会費
仕入	6,500	—	10,580	-4,080	
水道光熱費	3,200	—	4,300	-1,100	水道、電気、ガス代
荷造運賃	15	—	30	-15	
通信費	450	—	540	-90	電話代、切手代等
広告宣伝費	30	—	150	-120	広告掲載料、HP作成費等
接待交際費	40	—	50	-10	
損害保険料	180	—	50	130	火災保険、食中毒保険
修繕費	400	—	270	130	設備修繕料
消耗品費	750	—	830	-80	消耗品等
減価償却費	450	—	430	20	
車両掛費	800	—	1,070	-270	車燃料代等
支払手数料	470	—	1,200	-730	記帳指導料等
環境衛生費	380	—	580	-200	
設備保守料	300	—	340	-40	浄化槽、消防設備等
賃借料	75	—	80	-5	車両、設備リース
雑費	80	—	100	-20	テレビ受信料他
予備費	60	—	80	-20	
合計	37,000	—	44,600	-7,600	